

文化の違いのせいで、インターネット上での日本人研究者の認知度が低くなっている

Cultural differences reduce Japanese researchers' visibility on the Web

Nature Vol.444(817)/14 December 2006

世界には1つの大きな「壁のない研究所」が生まれつつあり、私たち科学者はそのことをひしひしと感じています。この「研究所」では情報が、近隣の研究所にいる研究員に伝わるのと同じくらい簡単に、地球の裏側にも伝わります。こうした事態に不安を感じる人もいますが、優秀な研究者、特に基礎科学の研究者にとっては大きな前進のチャンスといえます。ところが、情報の共有は必ずしも全体に釣り合いの取れた対称的なものではなく、関与する研究者ひとりひとりの利用できるツールによって格差が生じています。

この問題について、ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム (HFSP) が後援する国際研究プロジェクトの運営から得られた私たちの体験をもとに、ご説明します。

私たちが、それぞれ会長 (伊藤正男) と事務局長 (トールステン・ヴィーゼル) を務める国際 HFSP 推進機構は、基本的生命現象について研究する国際事業機関として15年以上前に日本によって設立されました。HFSPの事務局はフランスのストラスブール市にあり、国際的な審査委員会の協力を得て、ポストドクトラルフェローや研究プロジェクトの選考を行っています。

論文データベースや強力な検索エンジンのおかげで、事務局では情報の更新が定期的に行えるようになり、情報も簡単に手に入れることができます。ところが、この点に関して、すべての研究機関や国が対等の立場に置かれているわけではないことが明らかになったのです (www.hfsp.org/pubs/HFSP_articles/websites-scol.php 参照)。

日本の場合、多くの科学者が国際的な認知度が低いために損をしていることがわかりました。検索エンジンどころか論文デー

タベースでも、日本人科学者の名はなかなか見つからないのです。

その結果、日本人科学者が共同研究への参加や論文査読の依頼を受ける機会が減り、十分な国際経験を積みなくなっています。そこで、3つの大きな問題に取り組む必要があります。

第一に、ウェブページの構成を世界に通用する形にすべきです。つまり、科学者の研究テーマや所属する研究グループ、発表した研究論文がすべてのサイト訪問者にすぐわかるようにするのです。従来からある科学者の日本語版ウェブサイトの多くは、まず冒頭でその科学者の研究理念や学問的関心が披露されています。日本では、これが将来の研究指導者にとって重要なことだと考えられているからです。こうしたウェブサイトは、日本人の学生やポストドクだけが読むのであれば文化的に何ら問題はないのですが、欧米の研究所や大学のウェブサイトの簡潔なプレゼンテーションに慣れている海外からの閲覧者には、残念ながら通じません。1つの簡単な解決法は、既存のウェブサイト内に欧米スタイルのページを新たに作ることでしょう。そして、ウェブサイトの入り口 (ホームページ) で、そこへのリンクを英語でわかりやすく表示して簡単にアクセスできるようにするのです。

第二に、日本の多くの大学のウェブサイトは、学内のカリキュラムに沿った構成になっています。これは在学生にとっては便利ですが、海外からの閲覧者にとっては、あまり意味をもちません。そこで、ウェブサイトの入り口に英語で「research」(研究)という選択肢を明示し、海外からの閲覧者にもなじみのあるスタイルで研究成果を要約したページにリンクさせることが重要です。

第三に、世界の多くの地域では、姓やイニシャルが類似もしくは同一である科学者が大勢いて、そのために PubMed での文献検索が非常にむずかしくなったり、あるいは不可能になったりしています。これは、日本など一部のアジア諸国において確実にみられる問題です。この問題を解決するには、何らかの協調努力が必要です。おそらく、研究者個人の名前の頭に郵便番号のような研究所ごとの識別コードをつけることで、こうした国々の科学者が国際的な舞台上で公正に競争できるようになるでしょう。

これらはすべて、現在のグローバルな科学コミュニケーションにおいて早急に対処すべき課題です。最先端レベルの国際的研究は、インターネット上での認知度が極めて高い大学や研究機関に集中しつつあるのが現状なのです。

伊藤正男、トールステン・ヴィーゼル



国際 HFSP 推進機構 (HFSP) 会長の伊藤正男博士 (左) と事務総長のトールステン・ヴィーゼル博士 (右)。HFSP は 1989 年の設立以来、生命体の複雑なメカニズムの研究を対象として、2000 人以上のポストドクターにフェローシップを、約 700 件の国際研究プロジェクトに助成金を出している。